



出前授業 縄文時代の暮らし

9月3日（木）に花巻市立東和小学校で6年生を対象に実施しました。東和小学校の6年生は2学級で66人、とても礼儀正しく、資料を校舎内に運び込む時から、沢山の児童があいさつをしてくれました。

その日は、気温が30度を超えることが予報されているとても暑い日でしたが、学校の計らいで、授業会場を図工室からエアコンの効く音楽室に変更していただき、快適な環境の中で授業をさせていただきました。

2学級なので、1組を9時30分から、2組を10時35分からと2コマに分けて授業を行いました。どちらの学級も、児童が真剣に学芸員の解説を聞きながら、メモをしっかりとっている姿が印象的でした。



メモをとっている男子児童

授業の前半のスライドを使った解説の中で、東和小学校の近くにある遺

跡についての紹介が行われました。東和小学校の近くには、安俵6区遺跡と清水屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡があり、どちらも縄文時代後期でおよそ4000年前の遺跡であるということです。

清水屋敷Ⅱ遺跡から出土した埋設土器



上の写真の埋設土器は、赤ちゃんや子どものお墓として使われたり、マツリや祈りの際に使われたりしたと考えられています。

安俵6区遺跡から出土した

ストーンサークル



ストーンサークル（環状列石）は、祈りの場であったと考えられています。安俵6区遺跡からは、祈りの際に使われたと考えられるテトラポット形土製品や板状土偶なども発掘されています。

（裏へ続く）

テトラポット形土製品



板状土偶



授業の後半は、2つのグループに分かれ、石器と土器片を観察したり、土器を観察したりしました。

土器を観察している様子



石器と土器片を観察している様子



授業で使える 博物館常設展示の紹介④

古墳から出土した土器



古墳から発見される土器には、底や胴体をわざと壊したものがしばしば見られます。これは、死者がああの世で使用するために、この世での機能を奪うための儀式、または死への恐れや穢（けが）れを取り除く儀式ではないかと考えられています。

(博物館の熊堂古墳群のコーナーの中の展示解説より)